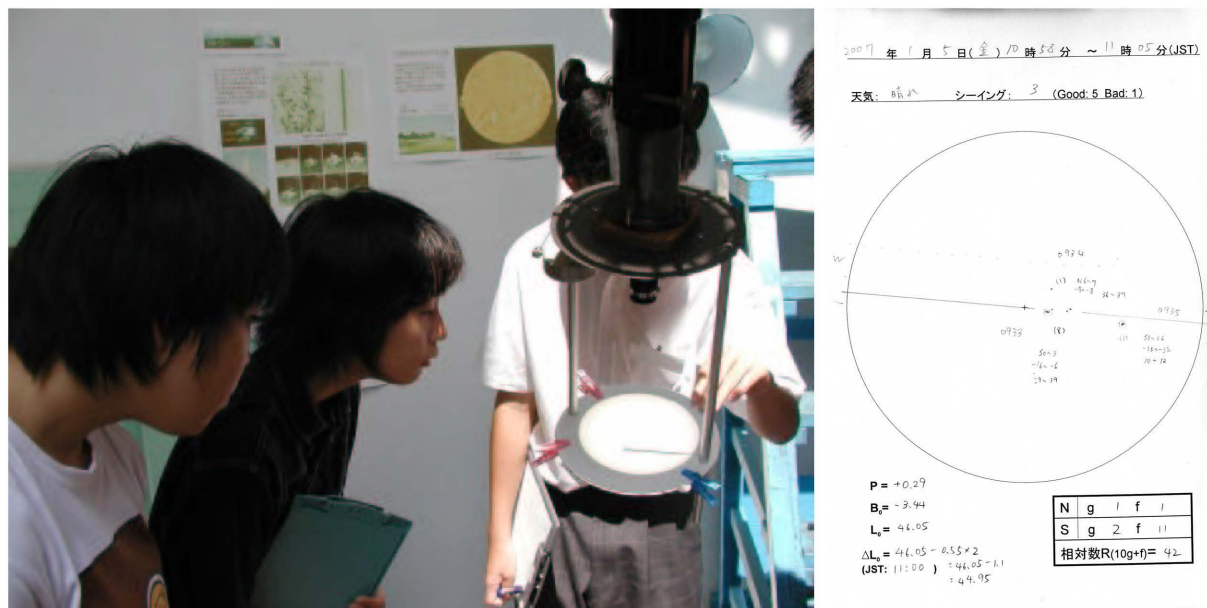


花山天文台における太陽黒点のスケッチ観測

花山天文台では18cm屈折望遠鏡にて常時太陽H α デジタル観測を行なっている。より詳しく太陽の状態を知るために2004年8月より太陽黒点スケッチ観測を開始した。観測方法は望遠鏡後ろに投影板を取り付けた投影観測である。当初はニコン製10cm屈折望遠鏡を野外に設置し観測を行なっていたが、2005年1月末から18cm屈折望遠鏡の副鏡(11.5cm屈折望遠鏡)を使用することで、効率的に黒点観測が行なえるようになった。見学の際にH α 画像と白色光を同時に見てもらえるという利点もある。

得られたデータは天文台ホームページで公開している他、毎月東亜天文学会の「黒点観測」の1データとしても活用されている(東亜天文学会誌【天界】掲載)。

近年増加している中高生の見学の際には黒点スケッチ実習を行い、黒点を身近に感じてもらえる機会を設けている。現在、日本国内で黒点スケッチを行なっている箇所は少なく、後継者がいないのが現状である。しかし太陽の活動を正確に把握するためにも黒点観測は重要である。黒点を身近に見てもらえることで今後太陽研究に興味を持つ学生が増えることを願っている。



(左) 高校生黒点観測実習の様子 (右) 黒点スケッチの記録

黒点観測のページ

http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/sartorius/ss_sketch/sunspot_sketch.html

スケッチ画像と相対数報告書を見ることができる

(枝村 聡子 記)